# 添嶋文庫・二　ついのべｅ．ｐ．





一．

君が喜んでくれればいいなと思って用意したＣＤをすんでのところで渡すのをやめた。そんなことをしたって怪訝そうな顔になるだけだからだ。僕とは何をしたかったのか。ＣＤを見つめたまま動けずにいると君が声をかけてきた。嘘をつけるかな。絶対に君にバレないような嘘を。

二．

ずっと君が僕を待っているって聞いてダッシュで教室へ向かう。何か持ったままうつむいて泣いているようにも見えた。きっと何も言わないだろうけど話しかけるよ。



三．

二人で帰るのは初めてだった。勝手についてくるだけだから冗談みたいなものだったけど。君が何も言わないのをいいことに勝手に話をしたら「俺も」最後の最後に「ま、好きなんだけどー」と言った。なんかずるい。





四．

僕に／ついて来る見た
は／たいわ送ち
何ってかつは
よたいるたつ
りそるかたひ
許れこらと／こと
せだとなもこと
なけだかうとも
かのけつなも
っこはたに話に
たと本／がさ
を当少正ず
僕のなしに
にこくく通過
黙とととて
っのもなす
てよ君にる
いうががが列
たただ僕間車
のっに違を
がた嘘っ二



五．

いつ
の名前をもは怒っ
君とで呼んだ（よよ
が悩ん好きないたのが
。た。
いしかり
にたり）
思の君が普
え時に通
きた今ま
て。
に僕ず僕



著者　：添嶋　謙　@ｉ！ｔｔｐ：／／ｃｅ．ｉ！ｔｔｌｅｓｔａｒｒａｒｙ．ｊｐ／ｃｅｏｋｏ．ｉ！ｔｔｌｅｓｔａｒｒａｒｙ．ｊｐ／ｄｉ．ｊｐ／

発行者　：空想少年はテキストデータの夢を見る

発行日　：二〇一〇年一二月五日　初版一刷

※８ｐ　折本メーカー（ｈｔｔｐ：／／８ｐ．ｊｐ／）で作りました。多謝。